

社会資本整備審議会 道路分科会

第19回近畿地方小委員会

議事概要

1. 日 時 平成 29 年 3 月 24 日（金）13:00～14:00
2. 場 所 近畿地方整備局 第1別館 3階 304会議室
3. 出席者

[委員]

浦尾 ^{うらお}	たか子 ^こ	京南倉庫株式会社 常務取締役
川本 ^{かわもと}	義海 ^{よしみ}	福井大学 学術研究院工学系部門 准教授
小林 ^{こばやし}	潔司 ^{きよし}	京都大学経営管理大学院 経営研究センター長・教授
玉岡 ^{たまおか}	かおる	作家 大阪芸術大学大学院 教授、兵庫県教育委員
榎村 ^{えのむら}	久子 ^{ひさこ}	京都女子大学宗教・文化研究所 客員教授
宗田 ^{むねた}	好史 ^{よしふみ}	京都府立大学 副学長・和食文化研究センター長・ 生命環境学部 教授
◎山下 ^{やました}	淳 ^{あつし}	関西学院大学法学部 教授

※敬称略、五十音順 ◎は委員長

4. 議 事

(1) 計画段階評価について

播磨臨海地域道路

(2) 議事概要

<委員からの主な意見>

■計画段階評価について

- ・政策目標の流れ、考え方、設定については妥当であり、特に留意事項の「早期整備」について、物流の観点からも東西と南北の人と物の流れの迅速化を地域が望んでいる
- ・「必要機能の確保」は山陽道、国道2号BP、播磨臨海地域道路の使い分け・役割分担をどのように誘導できるかという仕組みづくりが重要。
- ・産業交通が臨海部を通行することにより、生活交通との棲み分けができ、周辺環境の改善にも効果がある。
- ・ひょうごゴールデンルートもあるが、沿線地域を支えるという意味で、播磨南部地域の観光資源をどう活かすのかという観点は、地域の将来を考えた時に大事にされたい点。
- ・「交通事故の削減」については、事故を含めた、安全・安心で快適に通行でき、周辺的生活環境も改善される道路ということも含めた意味と理解。
- ・意見聴取は、今後概略ルート・構造の検討をする際、参考となる意見を聞き出すことが重要。
- ・オープンハウスを活用し、道路整備の意味を地域住民の方にご理解いただくことが重要。